



木次っ子の四季

～互いに互いの成長を喜び合う学校～

校長:伊藤彰彦



8月8日(日)には、木次小学校PTA奉仕作業が行われました。当日は、朝早くから暑い中にもかかわらず、保護者の皆様には校庭や校舎周りの草取りなど多くの作業をしていただきました。おかげ様で、きれいな状態で2学期を迎えることができました。紙面を借りて、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

8月27日から2学期が始まりました。子ども達の声が学校に帰ってきました。2学期には、文化的な行事が多くあります。それらの活動を通して、一人一人がどんな成長を見せてくれるのか楽しみです。

地域との活動「安全マップ作り」

始業式の日のは、八日市、三新塔、新市の交流センターに集まって「安全マップ」を作りました。「すぐに入れるところ」「見えにくいところ」を探して、子ども達が地域に出て活動をしました。グループに分かれて仕事を分担して活動しました。危険なところを写真に撮ったり、地域の人にインタビューをしたり、そうして分かった情報を地図に書き込んだりしました。

それぞれの交流センターでは、作った地図を見せながら、みんなで発表会をして、まとめました。

地域の皆様には子ども達にお昼ごはんを作っていたいだいたり、地図作りをサポートしていただいたりしました。ありがとうございました。



「あいさつ」のお話。

民生児童委員さんや、自主組織の会といった地域の方とお話をする機会があると、「木次小学校の子ども達は、素直でいい子たちばかりだけど、あいさつをもうちょっと頑張れたらいいがなあ。」という声をよく耳にしました。見守り隊の方も、「返ってくるあいさつが少なくて寂しい。」とおっしゃっていました。

小学校でも、学校の重点目標の一つに挙げていますので、取組を頑張らなければいけないところです。木次小学校の子ども達の中には、立ち止まってお辞儀をしてあいさつをしてくれる子もいます。大きな声で、自分からあいさつができる子もいます。しかし、中には大きな声が出にくい子もいます。あいさつはコミュニケーションですので、大切なことは気持ちが伝わることだと私は思います。今日も一日頑張りましょうというお互いのメッセージや〇〇さんは元気かなという相手へのいたわりの気持ち、今日も自分は頑張るぞという前向きな気持ちなどがあるあいさつから感じ取れたらいいと思います。始業式では、オリンピックでのあいさつに関する事例を出して、「木次をあいさつ日本一」にしようと呼びかけました。今までのあいさつの仕方を大切に、併せて、目を見てあいさつするとマスク越しにでも気持ちが伝わることを話しました。



9月6日から10日まで、学校運営協議会(コミュニティースクール)の活動として「あいさつ運動」に取り組みました。7日には、中学校から先輩4人と中学校の先生2人が、小学校に出向いて一緒にあいさつをしてくれました。小学生は、いつもとちがう様子でびっくりしていたところもありましたが、張り切ってあいさつをする姿が見られました。学校運営協議会の活動ですので、こうした学校間の連携をとった取組が可能です。中学生の参加は、効果てき面でした。中学生の皆さんありがとうございました。

特別支援教育連載「かけはし」



2学期が始まって約2週間が経ち、授業が本格的に行われています。子ども達はそれぞれの学びの場で学習に励んでいます。それでは、その学びの場について前号に引き続き紹介します。

Q4 木次小学校ではどのような学びの場があるのですか？（通級による指導編）

A ほとんどの授業を通常の学級で過ごしながら子どもの状態に応じた特別な指導を特別な場で受ける教育の形態です。

木次小では、通級指導教室が設置されていますので、通級指導教室の指導者が、子どもに応じた特別な指導を行っています。

静かな部屋で学習ができ、安心して学ぶ姿がみられます。大切な時間になっています。

通級指導教室の教員は2名いますが、他校へ出向いて指導も行うという勤務形態ですので、いつも在校しているわけではありません。